

通いたい ◇ 通わせたい 学校
 「自分が大事・友達が大事・学校が楽しい」
下布田教育プラン2026（R8）

学校経営方針

国・県の
教育ビジョン

かわさき教育プラン
 ・基本理念「夢や希望を抱いて生きがいのある人生をおくるための礎を築く」
 ○めざすもの「一人ひとりが輝き、共に未来をつくる」
 ○共有したい価値観
 「一歩踏み出す」「自分の幸せみんなの豊かさ」「多様性を可能性へ」

学校教育目標 豊かな人間性を持ち たくましく生きる下布田っ子の育成

《考える子》	《やさしい子》	《はたらく子》	《じょうぶな子》
自ら考え、課題に向かっ て学ぶ。	思いやりをもって友だち を大切にする。	みんなのために進んで働 き、最後までやりぬく。	心身ともに健康で、安全 な生活を営む。

めざす子ども・学校像 こんなことに力を入れます（今年度の重点）
 ☆キーワード「子ども達とともに」子どもに問いかけ、考えさせ、一緒につくる

<p>考える子 ★主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことの楽しさやできた喜びを味わえる授業 ・自分の考えを伝え、友達と学び合える授業 ・一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を基盤とした取り組み（個別最適な学び） ・人との関わりや体験活動を通じた授業 ・キャリア在り方生き方教育 ・GIGA スクール構想 ・校内研究テーマ「学ぶことの楽しさや喜びを実感できる下布田っ子をめざして」（探求的な学びの充実） 	<p>やさしい子 ★心を育てる教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや思いやりの言葉が行き交う学校づくり ・人権尊重教育、かわさき共生*共育プログラム、SOS の出し方教育、効果測定の適切な活用 ・確かなみとりによる適切な児童支援 ・ペア学年交流 ・いじめや暴力は許されないという学校環境の構築 ・情報モラル教育の推進 ・多様性の尊重（違いを認め合い助け合う）
<p>はたらく子 ★子ども自身を主体にした創造性豊かな教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら企画し運営する児童会活動・学級活動 ・人と人とのつながりやふれあいを大切にした活動や行事 ・自分や友達の思いを大事にし、実現に向けた主体的な取り組み ・一人一人の取り組みを価値づけ、働く喜びを感じながら最後までやりぬく活動の充実 	<p>じょうぶな子 ★体力づくり・健康増進（心身）・安全意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとつくる心身ともに安全安心な教育環境 ・心身ともに健康な子どもの育成を図る実践（キラキラタイム等） ・子ども自身による体力づくり、仲間づくり安全環境づくり（委員会活動など） ・居場所づくりや多様な学びの場の提供（別室・取り出し支援）

地域とともに歩む学校づくり ★保護者・地域との連携・協力

- ・保護者・地域・関係機関との連携や相互理解
- ・HP・ミマモルメでの情報発信の推進
- ・せせらぎ観察園など学校の特色を生かした取り組みや地域と連携した教育活動

子どもを育てる教職員像

- ・子どもの気持ちを大切にし、みんなで全校児童を育てる教職員
- ・助け合いながら学び続ける教職員
- ・ワークライフバランスを大切にし、健康で元気な教職員（業務改善・働き方改革）

2 「学校いじめ防止基本方針」策定の目的

いじめはどこの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であり、いじめを次に示す定義のように捉えることは、いじめの行為があったかどうかを学校が判断し、法的な責任を負うことをねらいとするものでなく、いじめられている児童生徒の救済を第一にして対応するものです。そのために、学校は一人ひとりの児童生徒との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組むために「学校いじめ防止基本方針」を改訂します。

3 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

4 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切にしたい授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくりや、インターネット上のいじめの防止、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にすることで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につけさせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普段の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制を整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童

生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートを実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を定期的（いじめを認知した場合には状況に応じて）に行い、校内いじめ対策ケース会議の情報の集約と共有をします。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行うと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがあります。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要があります。さらに保護者への対応についても誠意を尽くし、問題解決に向けて信頼関係と協力体制を確立します。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いがある情報があったときには、管理職、及び児童生徒指導担当者・支援教育コーディネーター等と当該事案に関わりのある教職員で構成された校内いじめ対策ケース会議（以下「ケース会議」という）を迅速に立ち上げ、個人情報に配慮しながら、いじめに関する情報の収集と情報共有、事実確認の方法や役割分担の確認、対応方針及び支援・指導体制の決定をし、解決に向けた支援・指導を行い、保護者との連携を管理職のリーダーシップのもと組織的に実施します。また、状況に応じて当該事案の対応方針及び支援・指導体制等の見直しを行います。

② いじめられた児童生徒への支援

- もともと信頼関係ができていた教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン(登下校の方法など)を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- よく事情を聞き、いかなる事情があっても、いじめることはいけないことだと教え、同じことを繰り返さないようにします。
- いじめた行為そのものは、よくないことと理解させつつ、相手に対して心身の苦痛を与えるような結果になってしまった理由を考えさせ、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。
- いじめを防ぐことができなかったことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立てを指導します。
- 必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

- いじめに関係した児童生徒の保護者には迅速に事実を伝え、ケース会議で決定した指導方針と対応策を示すとともに、いじめ解消に向けて協力を要請します。
- 解消するまで学校が主体性を発揮し、解消後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

5 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

次に掲げる場合を重大事態といたします。

- ① いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- ② いじめにより児童生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。
- 「いじめにより」とは、①②に規定する児童生徒の状況に至る要因が当該児童生徒に対して行われるいじめにあることを意味します。
- ①の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童生徒の状況に着目して判断します。例えば、
- 児童生徒が自殺を企図した場合
 - 身体に重大な傷害を負った場合
 - 金品等に重大な被害を被った場合
 - 精神性の疾患を発症した場合
- などのケースが想定されます。
- ②の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とします。
- ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手します。
- また、児童生徒や保護者からいじめにより重大に被害が生じたという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たります。

(2) 事実関係を明確にするための調査の実施

学校は、重大事態に至る要因となったいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなどの事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

なおこの調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものでないことは言うまでもなく、学校が事実に向き合うことで、当該事態への対処や同種の事態の発生防止を図るものです。

6 令和8年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】（校務分掌に位置付ける）

校長、教頭、支援教育コーディネーター、教務主任、学年主任、担任、
教育相談担当、養護教諭、スクールソーシャルワーカー、学校巡回カウンセラー

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証・・・（校長）
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成・・・（支援教育コーディネーター）
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営・・・（支援教育コーディネーター）
- ・いじめ問題に関する資料の管理・・・（支援教育コーディネーター）
- ・道徳教育との連携・・・（支援教育コーディネーター、道徳担当）
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し・・・（児童支援委員会）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい・年間計画の作成・・・（支援教育コーディネーター、養護教諭）

- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・・・・・・（支援教育コーディネーター、養護教諭）
- ・学校巡回カウンセラー等との連携・・・・・・・・（支援教育コーディネーター、養護教諭）

【児童・保護者・地域との連携】

- ・代表委員会・運営委員会との連携・・・・・・・・（支援教育コーディネーター、運営委員会担当）
- ・PTA校外委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（教務主任）
- ・地域教育会議との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（校長、教務主任）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（支援教育コーディネーター）
 - ・児童相談所との連携・・・・・・・・
- （支援教育コーディネーター、養護教諭、教頭）

7 令和8年度 いじめ防止等対策年間計画

月	活 動 内 容（校内いじめ防止対策会議・児童支援委員会・職員会議等）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認・役割分担 ・年間指導計画確認 ・かわさき共生＊共育プログラムの取組について
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第1回学校生活アンケート実施に向けた内容検討 ・学校説明会にて教育相談・特別支援教育のあり方等の説明 ・個人面談の実施
6	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応方法等についての研修 【児童指導点検強化月間】の取組（具体的な内容→あいさつ運動の実践） ・第1回学校生活アンケート実施・集約 ・学校生活アンケート結果を受けての対応について ・SNSトラブル防止教室実施
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・夏休み期間中の対応確認 ・非行防止教室の実施
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめの防止対策に関する研修会
9	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめ防止強化月間の実施 ・「いじめ」防止標語の取組 ・「いじめ」をテーマにした道徳の授業の実施 ・「いじめ」を生まない環境づくり（下布田ニコニコの木の作成） ・前期の反省とまとめと後期の具体的な取組の確認 ・個人面談の実施
10	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第2回学校生活アンケート実施に向けた内容検討
11	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認

	・第2回学校生活アンケート集約
1 2	・学校生活アンケート結果を受けての対応について ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・個人面談（希望制）の実施
1	・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認
2	【学校体制振り返り月間】の取組 ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・今年度の反省→学校評価への反映 ・学校体制振り返り月間の取組
3	・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・来年度に向けての基本方針の見直し

8 下布田小いじめ防止に向けた取組

児童の自主的な取組

[自主的な企画・運営]

- ・集会での呼びかけや人間関係づくりのレクリエーション
- ・自主的なあいさつ運動

[交流活動の活性化]

- ・異学年交流活動
- ・委員会活動 ・代表委員会（「いじめ」を生まない環境づくりについて）

[啓発活動]

- ・「いじめ」防止標語やポスターの作成、いじめ撲滅のキャンペーンの実施

地域住民の取組

- ・地域での見守り活動

9 下布田小いじめ対策に向けた取組

◎いじめが発生しにくい温かな学級・学校風土づくりを推進する。

◎いじめ、暴力行為とも未然防止を徹底し、課題が発生したとしても、迅速な対応を心がける。

◎様々な教育活動を通して、お互いに協力し合うなかで、多様性を認め合う態度や共感性を育むようにする。

◎「子どものいじめは、どの教室にも起こる可能性がある。」という危機感をもち、教職員が一人で抱え込むことがないようにする。